

これからの清田のまちづくり

2020.8.6 時点

【現状と課題】

- ▶ 清田区は、分区から 20 年を経過し、「清田区まちづくりビジョン 2020」(H11.3) に位置付けられた中でも、地下鉄延伸や警察署設置など、区民が希望しながら整備が進展していない面がみられ、地域交流拠点の形成が十分に進んでいない。
- ▶ 清田区の人口は、平成 27 (2015) 年から減少に転じるなど、当時の推計とは大きくかい離しており、高齢化率^{*}は令和 2 (2020) 年には 3 割を超え、急速に進むことが見込まれている。
※総人口のうち老年人口 (65 歳以上) の割合
- ▶ 「交通需要の伸び悩み」や「生活利便性への不安」、「地域活動の担い手不足」など、人口減少や高齢化といった、これまでも懸念されていた地域課題のほか、甚大な被害を受けた「北海道胆振東部地震」をはじめとした自然災害にも、これまで以上に注視していかなくてはならない。
- ▶ さらに、長期化する「新型コロナウイルスの感染拡大」は、区民の生活環境を一変させており、地域活動を含めた様々な取組を、感染拡大を予防する「新しい生活様式」を踏まえたものに組み替えていく必要がある。
- ▶ こういった、清田区を取り巻く環境の変化をしっかりと捉え、適宜取組を地域に合ったものに柔軟に見直し、将来に向けたまちづくりを着実に進めていくことが求められる。

【目指すべき成果】

- ▶ 全国的な人口減少の影響が懸念される中、地下鉄やバスといった交通利便性の向上や、警察署や利便施設など生活に関連する各種機能の充実を図っていくためには、より多くの人が行き交う、活力ある地域へと環境を整えていくことが重要となる。
- ▶ そのことが、地域の課題に対応し、良好なコミュニティが維持された、住み良いまちとして、愛着を持って長く住み続ける「定住人口」の確保につながっていく。

- ▶ そのため、現在の清田区民が「住み続けたい」と感じる機会を増やして、満足度を高めていくとともに、区外の方がより関心を持ち、「訪れたい」「住みたい」と行動する、交流人口を増やしていくことを目指して取り組む必要がある。

【取り組むうえで、生かすべき地域特性】

- ▶ 清田区では、見守りなど活発な地域活動が、安全や安心な住環境を支えており、札幌市内でも定住率が高く、次代を担う子育て世帯が転入超過している傾向にある。
- ▶ また、新千歳空港からの札幌の玄関口であることに加え、区内外から集客する大型施設が立地しており、行き交う人口が急速に増加している。
- ▶ 「きよたスイーツ」など、地域ならではの魅力が育ちつつあり、市民交流広場を有する区役所周辺や地域の大型施設を、情報発信の拠点として最大限活用することで、区内外の幅広い層に認知を広げることができる。
- ▶ 独自の魅力を持つ自治体と接しており、相互の強みを生かし合うことで、より魅力ある圏域として、まちづくりを発展させられる可能性がある。

【取組の観点】

- ▶ 取り組むにあたっては、地域ならではの特性を生かしながら、目指すべき成果である「住民満足度の向上」や「交流人口の増加」に向けた重要な観点を、地域全体で共通認識とする。

観点① 地域の拠点づくり

人や情報を集める中心ができれば、区内外に広く地域の魅力を発信し、地域活動をけん引することができる。

観点② 生活利便性の向上

個々の生活にあった情報やサービス、取組が行き届けば、清田ならではの安心で便利な暮らしができ、住みやすい地域としての魅力が高まる。

観点③ 交通需要の喚起

定住人口が増え、区内外の人の動きが活発になれば、乗客不足の解消や新たな交通手段の検討にもつながる。

- ▶ 取組の観点を踏まえ、区役所や地域の団体、企業が密に協力し、これまでの活動をより良くしていくほか、取組を積極的に具体化することで、互いに良い影響を与え合う、好循環を生み出していく。

取組① 人の流れを取り込む「賑わいづくりの拡大」

区民はもとより、行き交う人が地域に立ち寄るよう、区役所や市民交流広場、地域の大型施設など、地域資源を最大限に活用したうえで、様々な団体・企業と連携して、賑わいを創出するまちづくりを進める。

地域活動例) 地域ならではの催し

[ふれあい区民まつり、きよたマルシェ&きよフェス、
まちのあかりin清田 など]

取組② 地域の魅力を磨き、認知度を高める「区内外への情報発信」

清田区を認知し、愛着を持ってもらえるよう、地域が誇ることができる魅力を磨き上げるとともに、様々な機会を通じて、区内だけではなく、区外にも積極的に発信する。

地域活動例) 賑わいづくりに合わせた地元企業の出店

「きよたスイーツ」など区外への積極展開
感染防止のため外出を控えた区民へのテイクアウト情報の発信
教育を兼ねた、大学生からの地域情報発信

取組③ 子育て世帯や高齢者が「安心して生活できる環境づくり」

地域が一体となって防災・防犯に取り組むとともに、健康に長く住まうことができるよう、高齢者や子育て世帯など、個々の状況に合わせて、地域ならではの取組を進める。

地域活動例) 防災訓練、交通安全、防犯パトロール

独居高齢者などへの見守り・訪問、清掃・環境美化
文化やスポーツを通じた地域ぐるみの子育ち環境の充実
[子ども百人一首大会、少年少女大なわとび大会、
スポーツフェスタin白旗山、中学生サミット など]

取組④ 担い手を増やし、活動が活性化する「多様な交流の促進」

町内会をはじめとして、地域の団体や企業の活動を広く区民に周知するとともに、実践者が相互に交流を持ち、互いに協力し合う関係をつくる。

地域活動例) 各地域でのお祭りや運動会

同世代・多世代の交流[子育て世帯・高齢者向けサロン など]

【行政への提言】

地域交流拠点の形成・公共交通機能の向上

警察署設置を積極的に働き掛けるほか、民間企業の開発など、まちづくりの機会を捉えた地域交流拠点の形成、地下鉄東豊線の延伸を含めた、清田区方面への公共交通機能向上の検討を着実に進めていくこと。

地域動向の把握と区民への丁寧な情報提供

将来にわたってまちづくりを検討していくため、関連性の高い行政の取組のほか、地域住民の意識や取組に対する反応など、様々な観点から地域の動向を把握し、広く区民に伝えていくこと。

【区民会議の役割】

- ▶ 様々な地域活動の実践者が集まる会議体として、それぞれの取組内容や抱える課題などを情報共有しながら、まちづくりの方向性を踏まえた、より良い地域活動となるよう議論、実践していく。
- ▶ まちづくりの方向性について、区全体の取組はもとより、周辺環境の変化（市全体の取組、大型開発など）や、地域の変化（人口動態や住民の意識、ニーズなど）を把握しながら、適宜見直していく。